

「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクト活動報告

活動日 2020 年 3 月 20 日

活動名	第 1 回森里海を結ぶ植樹祭	
活動団体名	森里海を結ぶ会	
活動目的	かつては宝の海と呼ばれるほど豊かであった有明海とそれに依拠した周辺地域社会の蘇生を目指し、農林漁業が結び合う地域循環共生圏社会を築く新たな流れを生み出す「森里海を結ぶ植樹祭」を、続く世代の幸せを願って、諫早湾西部に位置する多良岳中腹において実施した。	
活動内容	有明海ならびに諫早湾は、周囲を山々に囲まれ、多くの川と地下水によって森と海がつながる典型的な森里海連環の世界であり、その再生が有明海と地域社会の蘇生の本道であるとの価値観を養う植樹活動を行った。あいにくの新型コロナウイルス問題の影響で、規模を縮小して、地元の多良岳に感謝の会、持続的な植樹活動を支える森里海を結ぶ会、地元の漁業者有志、諫早市の地域創生を願う市民有志など関係者 40 名による、クヌギの苗木 650 本の植樹を行った。気仙沼から駆けつけていただいた森は海の恋人運動の畠山重篤さんを囲んで、多様な分野の参加者が結び合い、歓談の輪が広がった。	
活動写真		
写真説明	親子でクヌギの苗木を植える	諫早湾を見渡す丘での植樹祭参加者
活動効果	この上ない好天の春の一日、新型コロナウイルス問題とは無縁の、次世代の幸せを願う植樹で気持ちのよい汗を流し、免疫力を高めた。近い将来、ここはカブトムシの森として、また、成長した若木をほだ木にした椎茸栽培を親子で楽しむ場として活用する希望が膨らんだ。今後、植えた苗を育てる育樹の集い、長里川流域での絶滅危惧種ニホンウナギや有明海特産魚ヤマノカミなど川の生き物観察会、河口域での森の恵みで育まれるアサリの潮干狩りなど、森里川海のつながりを子供達が実感できる取り組みが現実のものとなった。	
今後の展望	今回の植樹祭には全国から 48 団体、200 名を超える個人からの協賛が得られ、それらを基に全国の同様の取り組みと交流・連携する「森里海を結ぶ植樹祭」を諫早市で開催し、この流れをより確かなものにする展望が開けた。	